

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	国語	科目	現代文B	学年	第2学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	精選 現代文B (教育出版)				
副教材	新訂総合国語 (第一学習社)						

学習目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
------	--

	単元	主な単元の目標	教材	評価の観点					定期考査	
				①	②	③	④	⑤		
1 学 期	4月	内容を的確に読み取る。	・随筆の内容を叙述に即して的確に読み取る。	随想 芝	○			◎	○	第1回
	5月	描写を的確にとらえ、表現を味わう。	・人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。	小説一 中島敦「山月記」	○			◎	○	
	6月	構成、展開、要旨を確かめる。	・文章の構成、展開、要旨などを確かめ、その構造を理解する。	評論一 情報の彫刻	○			◎	○	
	7月	詩歌を読み味わう。	・詩歌の鑑賞法について学び、文体や修辞法など表現上の特色をとらえ、作品を読み味わうとともに自己表現に役立てる。	詩歌 I was born・サーカス・永訣の朝・短歌・死にたまふ母	○			◎	○	
2 学 期	8月	論理性を評価する。	・文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価する。	評論二 実体の美と状況の美	○		◎		○	第2回
	9月	読み比べを通じて書き手の意図を考える。	・描写を的確にとらえ、読み比べを通じて作品世界の変化や書き手の意図を考える。	小説二 水仙	○			◎	○	
	10月	批評することを通して、自分の考えを深める。	・現代日本の問題点について書かれた文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深める。	評論六 「である」ことと「する」こと	○			◎	○	
	11月	登場人物の心理変化を正確に読み取る。	・登場人物の心理変化を正確に読み取り、作品主題の普遍性を理解する。	小説三 こころ	○			◎	○	
3 学 期	1月	論理展開を分析する力を養う。	・段落構成に対する意識を持ち、本文全体の論理展開を分析する力を養う。	評論四 異時代人の眼	○			◎	○	第4回
	2月	作品読解への理解を深め、自分の考えを表現する。	・主人公の心理を情景描写との関係でとらえることで、文学作品の読解に関して理解を深め、それについて効果的に表現する。	小説一 舞姫	○		◎		○	
	3月									

学習の方法	文章について分析し、内容を深く理解する。その上で、評論・文芸にかかわらず、筆者の考え方や登場人物の行動についての自らの考えを明確にする。 機会を捉えて、班やクラス全体での話し合いを行うので、場に応じた話し方や説得力のある文章構成等、個々の表現能力を磨き続けなければならない。 年4回の考査や実力テストを通して、大学入試等に必要な力を養っているか検証する。
-------	---

評価の仕方	予習、宿題、発表、話し合いなどの日常の取組が評価の対象である。したがって、書く能力はもちろん、話す能力・聞く能力も鍛えていく必要がある。 また、定期考査や、夏季・冬季の長期休暇で与えられる課題（感想文、小論文、サブテキスト等）、小テストの成績なども総合的に評価していく。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 話す・聞く能力 ③ 書く能力 ④ 読む能力 ⑤ 知識・理解 (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	国語	科目	古典B	学年	第2学年	類型	共通
単位数	3単位	教科書	精選古典B（東京書籍）				
副教材	新訂総合国語便覧・新精選古典文法・新明説漢文						

学習目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする。
------	---

	単元	主な単元の目標	教材	評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学期	4月 古文・漢文の読み方を確認する。	・文法事項や句法を踏まえながら、適切な現代語訳をする。 ・話の展開や内容のおもしろさを味わう。	宇治拾遺物語・小野篁広才のこと、古今著聞集・能は歌詠み、十八史略・先従隋始・完璧而帰	○			◎	○	第1回
	5月 随筆を読み味わう。	・古文を読み、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる。	方丈記・安元の大火	○			◎	○	
	6月 軍記物語を読み味わう。	・古文を読み、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	平家物語・忠度の都落ち・壇の浦の合戦	○				○	
	7月 中国の思想を通して人間の生き方やあり方について思索を深める。	・思想家の文章を読み、人間や政治をめぐるさまざまな思想を読み取る。	儒家と道家	○			◎	○	
2 学期	8月 日記を読み味わう。	・日記を読み、作者の境遇や心情について読み取る。	更級日記・門出蜻蛉日記・なげき～	○			◎	○	第2回
	9月 歴史書を読み味わう。	・登場人物の生き方を通して、人間のあり方について関心を深める。	史記 鴻門之会・四面楚歌 項王自刎	○			◎	○	
	10月 物語を読み味わう。	・古文の歴史物語を読み、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	大鏡・道真の左遷、花山天皇の出家 源氏物語（一）	○			◎	○	
	11月 漢詩を味わう。	・漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。	近体詩一八首	○			◎	○	
3 学期	12月			○			◎	○	第3回
	1月 近世小説を読み味わう。	・古文を読み、登場人物の心情や性格を、表現に即して考える。	おらが春 幼子さと	○			◎	○	第4回
	2月 漢文の小説を読み味わう。	・文章の展開を整理し、登場人物の発言や行動について理解し、小説のおもしろさを読み味わう。	小説 小時了了 夜行逢鬼	○			◎	○	
3月 詩歌を味わう。	・優れた和歌を鑑賞し、韻律や技巧について知るとともに、作者の心情を読み取る。	万葉秀歌 王朝秀歌	○			◎	○		

学習方法	文章について分析し、内容を深く理解する。その上で、評論・文芸にかかわらず、筆者の考え方や登場人物の行動についての自らの考えを明確にする。 機会をとらえて、班やクラスでの話し合いを行うので、場に応じた話し方や説得力のある文章構成等、個々の表現能力を磨き続けなければならない。 年4回の考査や実力テストを通して、大学入試等に必要な力を養っているか検証する。
------	--

評価の仕方	予習は当然行うものとして準備する。発表、話し合いなどの日常の取組についても評価の対象とする。よって、文法力・語彙力、漢文独特の句法・歴史、古典の知識（有職故実等）も鍛えておく必要がある。 定期考査による評価に加え、夏季・冬季の長期休暇で与えられる課題（意見文、感想文、サブテキスト等）や平常の小テストの成績などを総合的に評価していく。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 話す・聞く能力 ③ 書く能力 ④ 読む能力 ⑤ 知識・理解 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。）
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	地理歴史	科目	世界史B	学年	第2学年	類型	I型
単位数	4単位	教科書	詳説世界史改訂版（山川出版社）				
副教材	アカデミア世界史（浜島書店）						

学習目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特徴を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
------	---

	学習計画及び内容			評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	序章 先史の世界	・古代オリエント文明のほか、エーゲ・ギリシア・ローマの各文明の特色やそれらが後のヨーロッパ文明の母体となったことを学習する。		◎	○			第1回
	5月	第1章 オリエントと地中海世界							
	6月	第2章 アジア・アメリカの古代文明		・インド以東のアジア・アメリカの古代文明を扱う。南アジア・東南アジア・中国といったユーラシア大陸やアメリカ大陸の文明の成立・繁栄・衰退について学ぶ。		○		◎	
2 学 期	8月	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・魏晋南北朝の分裂時代から元朝による南宋の征服にいたるまでの千年あまりの東アジアの歴史を中国を中心に、朝鮮や日本の周辺国家の形成を関連付けて学習する。	○				◎	第2回
	9月								
	10月	第4章 イスラーム世界の形成と発展		・7世紀のイスラーム教の成立から15世紀までのイスラーム世界の拡大を学習する。		○	◎		
	11月	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展		・西ローマ帝国が滅びた後、中世と呼ばれる千年におよぶヨーロッパの時代を扱い、フランク王国・封建社会・十字軍等を学習する。		○		◎	第3回
3 学 期	12月	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	・唐の滅亡以後、モンゴル帝国がユーラシアの大半を統合する13～14世紀までの内陸アジア・東アジア世界を扱う。		◎		○		第4回
	1月	第7章 アジア諸地域の繁栄	・14～18世紀頃までのアジア諸地域の動向を扱い、明・清・ティムール・サファヴィー・ムガルなど各国の興亡を中心に学習する。	○				◎	
	2月	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	・ルネサンス・宗教改革・主権国家体制の成立・世界各地への進出と大西洋世界の形成を学習する。		◎	○			
3月									

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を中心に教科書・図説・プリントを活用して世界の歴史の流れを整理・理解していきます。</li> <li>・人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。</li> <li>・年4回の定期考査ごとに学習内容をまとめ、『世界史重要語句Check List』（啓隆社）などを活用して知識の整理を図ることが必要です。</li> </ul>
------	---

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査に加え、提出物・小テストの成績などを総合的に評価します。</li> <li>・平常の取組についても評価の対象とします。世界史に関する知識理解はもちろん、歴史に対する興味関心の程度、過去の出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に評価します。</li> </ul>
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度    ② 思考・判断・表現    ③ 資料活用の技能    ④ 知識・理解    ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入しています。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史B	学年	第2学年	類型	I型
単位数	3単位	教科書	詳説日本史改訂版（山川出版社）				
副教材	新詳日本史（浜島書店） 詳録新日本史史料集成（第一学習社）						

学習目標	我が国の歴史の展開について、世界史的視野に立って各時代の特色及び変遷を総合的に考察し、我が国の文化と伝統についての認識を深める。 また、歴史学習を通じて、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
------	--

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査			
			①	②	③	④	⑤				
1 学 期	4月	歴史へのアプローチ 第1章 日本文化のあけぼの  第2章 律令国家の形成  第3章 貴族政治と国風文化	・農耕の開始などによる生活の変化に着目して、旧石器・縄文及び弥生の各文化における社会を学びます。  ・律令制の確立過程、東アジアとの交流に着目して、古代国家の展開と古墳・飛鳥・天平の各文化を学びます。  ・東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など地方の動きに着目して、国家の推移と国風文化の展開を学びます。	◎	○				第1回		
	5月			○		◎					
	6月					○	◎				
	7月			◎		○					
2 学 期	8月	第4章 中世社会の成立  第5章 武家社会の成長	・武士の土地支配と公武関係、宋・元との関わりに着目して、院政期の社会から、平氏政権、執権政治中心の鎌倉政権へとつながる武家政権の形成過程を学びます。また、新仏教を中心に鎌倉文化を学習します。  ・日明貿易や東アジア世界との交流、庶民の台頭に着目して、産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開を学びます。また、武家と公家の両文化の関わりや庶民文化の萌芽などについて、南北朝・北山・東山の各文化を通して学習します。		◎		○		第2回		
	9月						○	◎			
	10月					○			◎		第3回
	11月					○			◎		
3 学 期	12月	第6章 幕藩体制の確立	・織豊政権及び幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について、ヨーロッパ文化の伝来や禁教政策などの国際関係の変化に注目しながら学びます。		◎		○		第4回		
	1月					○		◎			
	2月			◎		○					
	3月			◎		○					

学習の方法	授業を中心に教科書・図説・プリントを活用して日本の歴史の流れを整理・理解していきます。 人名や事件の名称を単に暗記するのではなく、歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察していくことが大切です。 年4回の定期考査ごとに学習内容をまとめ、「日本史重要語句チェックリスト」（啓隆社）などを活用して、基礎知識の整理をはかる必要があります。
-------	---

評価の仕方	定期考査に加え、小テスト・提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。日本史に関する知識理解はもちろん、歴史に対する興味関心の程度、過去との出来事を分析し、現在や未来に結びつけて物事を考察する歴史的思考力などを総合的に判断して評価します。
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 資料活用の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	地理歴史	科目	地理B	学年	第2学年	類型	I型
単位数	3単位	教科書	新編詳解地理B改訂版（二宮書店） 詳解現代地図（二宮書店）				
副教材	新編地理資料（東京法令出版）新地理要点ノート（啓隆社） 地理ワークブック（愛媛県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会地理部門）地理B一問一問（Z会）						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代社会の地理的認識を養う。</li> <li>・地理学習を通じて、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。</li> </ul>
------	--

	学習計画及び内容			評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	第I編 さまざまな地図と地理的技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読図などの活動を通して地図の有用性について学習する。</li> <li>・球体を地図に表現した場合の特性や、時差の求め方を通して、地理的技能を身に付ける。</li> <li>・地理情報の統計地図化などの活動を通して、現代世界の地理的事象を捉える地理的技能を身に付ける。</li> <li>・地域を地形図などの地図を活用して調査し、生活圏の地域的特色を捉える地理的技能を身に付ける。</li> </ul>	◎	○				第1回
	5月	1章 地理情報と地図			○	◎			
	6月	1節 世界観の変化と地図			○	◎			
	7月	2節 地球儀と世界地図			○	◎			
2 学 期	8月	第II編 現代世界の系統地理的考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大地形・小地形・その他の地形の分布や成因を考察するとともに、災害と恩恵など人間生活との関わりを考察する。</li> <li>・気候要素と気候因子の関係から、その成り立ちを考察し、それぞれの気候区の特徴と農業など人間生活への影響を考察する。</li> <li>・地形や気候の特徴と、これによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。</li> <li>・世界の環境問題の成因や特徴と対策、分布を大観し、地球温暖化、森林破壊、砂漠化について事例を考察する。</li> <li>・農業地域区分や、農林水産業の現状と課題、及び世界のなかでの日本の農林水産業の課題を考察する。</li> </ul>			◎	○		第2回
	9月	1章 自然環境				◎	○		
	10月	1節 地形				◎	○		
	11月	2節 気候				◎	○		
	12月	3節 自然と生活				◎	○		
	12月	4節 自然環境に関する諸問題				◎	○		
3 学 期	1月	2章 資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。</li> <li>・世界の工業の成り立ち・立地を取り上げ、工業地域の形成と変容に関して考察する。</li> <li>・世界の交通・情報通信・貿易・商業・観光について、特色と動向、形成要因を考察する。</li> </ul>			○	◎		第4回
	2月	1節 農林水産業				◎	○		
	3月	2節 資源・エネルギー				○	◎		

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理や社会現象全般にわたる基本的知識を応用して、地理的思考力・考察力を養います。</li> <li>・具体的な地誌学習を通じて、世界各地の地域性や類似性・法則性、異文化の理解を目指します。</li> <li>・地球的な課題を広い視野から総合的にとらえ、その解決方法を深く考察します。</li> <li>・大学入試に向けて問題演習などを積極的に取り入れて、学力のレベルアップを目指します。</li> </ul>
-------	--

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査に加え、提出物、小テストの成績、日頃の学習態度等を総合的に評価します。</li> <li>・地理的基礎知識はもちろん、地理的事象に関する興味・関心の程度、地図・図版・統計資料等を関連づけて、地理的な見方・考え方が身に付いたかを評価します。</li> </ul>
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度    ② 思考・判断・表現    ③ 資料活用の技能    ④ 知識・理解    ⑤ なし （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。）
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	数学	科目	数学Ⅱ・数学B	学年	第2学年	類型	I型
単位数	3・2単位	教科書	「改訂版 数学Ⅱ」, 「改訂版 数学B」 (数研出版)				
副教材	問題集「新課程 サクシード数学Ⅱ完成ノート, 数学B完成ノート」 (数研出版) 参考書「フォーカスゴールド 数学Ⅱ+B」 (啓林館)						

学習目標	1年生で学んだ数学の基礎的・基本的な知識と技能の習熟を再度確認し、数学的な見方や考え方を用いて、身の回りのさまざまな自然科学の事象や問題を考察し処理することができる能力を伸ばす。
------	---

		学習計画及び内容		評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	数学Ⅱ 第3章 三角関数	・既習の三角比の内容をもとに、三角関数のグラフや諸性質を学び、加法定理や二倍角の公式などの利用方法を学習する。						第1回
	5月					○	○		
	6月	数学Ⅱ 第4章 指数関数と対数関数	・指数法則や対数の性質を理解し、グラフの特徴や方程式・不等式の解き方を学習する。さらに、常用対数の有用性を学習する。	○	○				
2 学 期	8月	数学Ⅱ 第5章 微分法と積分法	・微分法概念について学習し、微分係数や導関数の意味を理解する。また、導関数の増減から関数のグラフを描く方法を習得する。						第2回
	9月					○	○		
	10月		・不定積分や定積分について学習し、様々な図形の面積を求める方法を習得する。また、微分や積分の考え方が物理現象にも役立つことを学ぶ。	○		○			
	11月	数学B 第2章 平面上のベクトル	・ベクトルの概念を学び、既習のさまざまな平面図形の性質を、ベクトルを用いて表現する方法を学ぶ。			○	○		
3 学 期	12月							第3回	
	1月	数学B 第3章 空間のベクトル	・空間座標を導入することにより、ベクトルの世界を拡張し、球面の方程式などを学習する。			○	○		第4回
	2月	数学B 第1章 数列	・等差数列、等比数列の一般項や和の求め方を学習する。また、漸化式から一般項を求める方法や、数学的帰納法の原理を学習する。	○		○			
3月									

学習法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での教科書の予習は欠かせません。予習で生じた疑問点を授業で解決し、復習します。</li> <li>・授業では、教科書と並行して、問題集(サクシード)の「重要例題」「問題B」「発展」を解きます。どうしても解けないときは、参考書(チャート式)を調べる、友人と研究し合う、先生に聞くなど方して、必ず自力で解けるようにします。</li> <li>・家庭学習を計画的に毎日実行する習慣を身に付け、根気強く学習することが大切です。</li> </ul>
-----	--

評価の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査に加え、週末課題やノートの提出、小テストの成績などを総合的に評価します。</li> <li>・平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、解答の板書状況などを総合的に評価します。</li> </ul>
-------	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 数学的な見方や考え方 ③ 数学的な技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	理科	科目	生物基礎	学年	第2学年	類型	I・II型
単位数	2・3単位	教科書	改訂版 生物基礎 (数件出版)				
副教材	ニューステージ新生物図表 (浜島書店)・・・I型・II型共通 ニュージーグローバル生物基礎 (東京書籍)・・・I型 セミナー生物基礎+生物 (第一学習社)・・・II型						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物や生物現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。</li> <li>生物基礎の学習を通して、生物の基礎基本の定着を目標とする。</li> </ul>
------	---

	学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
		①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月 予習学習 探究活動の進め方	○			○		第1回
	5月 第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴		○	◎			
	6月	◎	○				
	7月 第2章 遺伝子とその働き	◎	○				
2 学 期	8月 第2編 生物の体内環境の維持 9月 第3章 生物の体内環境			◎	○		第2回
	10月		○		◎		
	11月 第3編 生物の多様性と生態系 12月 第4章 植生の多様性と分布	○			◎		第3回
			○	◎			
3 学 期	1月 第5章 生態系とその保全		◎		○		第4回
	2月	◎	○				
	3月 学習のまとめ		○		◎		

学習の方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>暗記のみにとどまることなく、生物にとってその生物現象にどのような意義や目的があるのかなどを常に考えながら、授業に真剣に取り組むこと。</li> <li>興味の高まった分野、理解の不十分な分野を中心に、副教材を活用して理解を進めること。</li> <li>観察・実験時には予習を行い目的と内容を十分に理解した上で主体的に取り組むこと。実験後は、結果の整理、考察を行い、レポートを提出すること。</li> </ul>
-----------	---

評価の仕 方	<ul style="list-style-type: none"> <li>4回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。</li> </ul>
-----------	---

評価の 観点	① 関心・意欲・態度    ② 思考・判断・表現    ③ 観察・実験の技能    ④ 知識・理解    ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-----------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	理科	科目	地学基礎	学年	第2学年	類型	I型
単位数	2単位	教科書	新編 地学基礎 (数研)				
副教材	スクエア最新図説地学 (第一学習社)						

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
------	--

	学習計画及び内容			評価の観点					定期考査
				①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	第1部 固体地球とその変動 第1章 地球	・地球の概観について学び、その内部構造について理解する。	◎			○		第1回
	5月	第2章 活動する地球	・プレートと地球の活動について理解し、地震や火山活動、火成岩の形成について学ぶ。		○	◎			
	6月	第2部 移り変わる地球 第1章 地球史の読み方	・堆積岩とその形成や地層と地質構造について学び、地球の歴史の組み立てについて理解する。	◎	○				
2 学 期	8月	第2章 地球と生命の進化	・古生物の変遷と地球環境の変化について理解し、先カンブリア時代や顕生代について学ぶ。			◎	○	第2回	
	9月								
	10月	第3部 大気と海洋 第1章 大気の種類	・大気圏について理解し、水と気象の関係を学ぶ。		○	◎		第3回	
	11月	第2章 太陽放射と大気・海洋の運動	・地球全体のエネルギー収支について理解し、大気の大循環や海水の循環について学ぶ。	○		◎			
12月	第3章 日本で見られる季節の気象	・日本で見られる冬から春、夏から秋への季節の気象について学ぶ。		○	◎				
3 学 期	1月	第4部 宇宙の構成 第1章 太陽系と太陽	・太陽系の誕生について理解し、太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源及び太陽系の天体について学ぶ。			◎	○	第4回	
	2月	第2章 恒星としての太陽の進化	・恒星としての太陽の誕生と進化を理解する。	◎	○				
	3月	第3章 銀河系と宇宙	・銀河系とまわりの銀河について学び、宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。		○	◎			

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。</li> <li>・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。</li> <li>・学んだことを正確に記録する方法と態度を身に付けること。</li> </ul>
-------	---

評価の仕方	・4回の定期考査成績に加えて、観察・実験の取組状況及びレポートの内容、課題の提出状況等を、評価の観点に従って、総合的に判断し、評価する。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度 ② 思考・判断・表現 ③ 観察・実験の技能 ④ 知識・理解 ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---



平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	保健体育	科目	体育	学年	第2学年	類型	共通
単位数	3単位	教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)				
副教材	図説 現代高等保健 304 (大修館書店)						

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の運動の合理的な実践を通して、運動能力を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに自身の体の調子を整え、体力の向上を図る力を養う。</li> <li>・公正・協力・責任などの社会的態度を育て、生涯を通じて明るく豊かで活力のある生活を営む資質や能力を育てる。</li> </ul>
------	--

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	体づくり運動	◎	◎	◎	○		
	5月	球技選択Ⅰ	◎	◎	◎	○		
	6月	柔道・ダンス (選択)	◎	◎	◎	○		
	7月	体育理論 体づくり運動・ダンス	◎	○	○	◎		
2 学 期	8月	体づくり運動・ダンス	◎	◎	◎	○		
	9月	球技選択Ⅰ	◎	◎	◎	○		
	10月	柔道・ダンス (選択)	◎	◎	◎	○		
	11月	体育理論	◎	○	○	◎		
3 学 期	1月	体づくり運動・持久走	◎	◎	◎	○		
	2月	球技選択Ⅱ	◎	◎	◎	○		
	3月	柔道・ダンス (選択) 体育理論	◎	◎	◎	○		

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校独自の「東高体操」や「集団走」などみんなで一生懸命に授業に取り組むことを大切に授業を行っていきます。東高生として、授業へ取り組む真面目な姿勢が大切です。</li> <li>・運動技能の基礎基本を確実に学習し、仲間とともに体を動かす楽しさと喜びを味わい、自らの体力に応じて、自分の可能性に挑戦していきます。</li> </ul>
-------	---

評価の仕方	各種目や内容について、運動技能だけでなく、授業に対する意欲や運動やスポーツへの関心、一生懸命に頑張る態度など総合的に評価します。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度    ② 思考・判断・表現    ③ 運動の技能    ④ 知識・理解    ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	保健体育	科目	保健	学年	第2学年	類型	共通
単位数	1単位	教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)				
副教材	図説 現代高等保健 304 (大修館書店)						

学習目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
------	--

		学習計画及び内容	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学期	4月	思春期と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期における体の発達や行動面・心理面の特徴について学習する。</li> <li>・男女差の性的欲求や性行動について学習する。</li> <li>・健康な結婚生活をおくるための留意点や結婚生活の重要性について学習する。</li> <li>・妊娠出産の過程を学習し、健康に留意すべき点を理解する。(VTR学習)</li> <li>・家族計画の意義と避妊法および人工妊娠中絶の条件や心身におよぼす影響を理解する。</li> <li>・加齢にともなう心身の変化や中高年期を健やかに過ごすための留意点を理解する。</li> <li>・高齢者の健康課題や総合的対策について学習する。</li> </ul>	◎	○	○	◎	第1回考査
	5月	性意識と性行動の選択		◎	○	○	◎	
	6月	結婚生活と健康		◎	○	○	◎	
	7月	妊娠・出産と健康 家族計画と人工妊娠中絶 加齢と健康 高齢者のための社会的取り組み		◎	○	○	◎	
2 学期	8月	保健制度とその活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健行政の役割やしきみ、保健サービスについて学習する。</li> <li>・医療機関の選び方や医療情報の得方を学習する。</li> <li>・医薬品の特性を理解し、使用方法に関する注意などを学習する。</li> <li>・健康課題に対して各種の保健活動や対策について学習する。</li> <li>・大気汚染や水質汚濁、土壌汚染の原因や起こり方、健康への影響について学習する。</li> <li>・環境汚染の防止・改善への対策を理解する。</li> <li>・ごみ処理の過程やし尿・下水道の整備についての問題点や対策を学習する。</li> <li>・食品衛生管理や食品の安全性のための対策例について理解する。</li> </ul>	◎	○	○	◎	第3回考査
	9月	医療制度とその活用		◎	○	○	◎	
	10月	医薬品と健康		◎	○	○	◎	
	11月	さまざまな保健活動や対策		◎	○	○	◎	
	12月	大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康 健康被害の防止と環境対策 環境衛生活動のしくみと働き 食品衛生活動のしくみと働き 食品と環境の保健と私たち		◎	○	○	◎	
3 学期	1月	働くことと健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことと健康の相互影響について理解する。</li> <li>・労働災害の防止対策や職場の健康管理の必要性を理解する。</li> <li>・職場や日常生活での健康増進について学習する。</li> </ul>	◎	○	○	◎	第4回考査
	2月	労働災害と健康		◎	○	○	◎	
	3月	健康的な職業生活		◎	○	○	◎	
	3月	健康的な職業生活		◎	○	○	◎	

学習の方法	教科書と副教材を中心に授業を行います。授業の中でそれぞれの内容に即して設定した学習課題を自らの手で調べてその発表を行い、さらに理解を深めていきます。 また、学習した内容を単に暗記に留めるに終わらず、日常生活の中での実践力につなげて、自らが課題解決できる力を養っていきます。
-------	---

評価の仕方	定期考査に加え、課題学習の発表の内容や提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。保健に関する知識理解及び興味関心の程度、日常生活における健康・安全に対する思考力や実践力などを総合的に判断します。
-------	--

評価の観点	① 関心・意欲・態度    ② 思考・判断・表現    ③ 運動の技能    ④ 知識・理解    ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	--

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	学年	第2学年	類型	I型、SG I型
単位数	4単位	教科書					
副教材	クラウン「チャンクで英単語 Advanced」						

到達度目標	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた場面において、状況や立場に応じて自分の用件を正確な英語で伝えることができる。</li> <li>英文の内容に関する質問について、根拠文を正しく捉え、自分なりの英語で答えることができる。</li> <li>与えられたテーマについて、自分の考えを即興で相手に伝えることができる。</li> </ul>	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられたテーマについて、賛成・反対の立場とその理由を具体例を示して書くことができる。</li> <li>自分の意見や考えを段落構成を考えながら100語程度で書くことができる。</li> <li>英文の内容について、自分なりの英語で要約することができる。</li> </ul>
	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話や説明などを聞いて、キーワードを捉え、大意を把握することができる。</li> <li>英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて英文の内容を正しく聞き取ることができる。</li> </ul>	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明文やエッセイ、対話形式など様々な形態の英語を、重要な事実を捉えながら正しく読み取ることができる。</li> <li>英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて正確に音読することができる。</li> </ul>

	単元	主な単元の目標	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学期	4月	L.1 ・A Boy and His Windmill ・アフリカの貧困の問題について考える。	○	◎	◎	○	第1回	
	5月		○	◎	◎	○		
	6月	L.2 ・Into Unknown Territory ・インタビュー形式の対話を行う。 ・日本の伝統文化を紹介する。	○	◎	◎	○		
	7月	L.3 ・Paul the Prophet ・動物の予知能力について英語で簡潔にまとめる。 ・新聞記事の形式に慣れ、内容を理解する。	○	◎	◎	○		
2 学期	8月	L.4 ・Crossing the Border ・ボランティア活動をする上で大切なことについて話す。 ・自分の経験したボランティア活動について発表する。	○	◎	◎	○	第2回	
	9月		○	◎	◎	○		
	10月	L.5 ・Txting ・グラフなどのデータを表現する英語に慣れる。	○	◎	◎	○	第3回	
	11月	L.6 ・Ashura ・絵画を比較し、その感想を発表する。 ・絵文字に文化の違いが現れることを理解する。	○	◎	◎	○		
12月	L.7 ・Why Biomimicry? ・自然と人とのつながり、「共生」について考え、意見を述べる。	○	◎	◎	○			
3 学期	1月	L.8 ・Before Another 20 Minutes Goes By ・日本における世界貢献、平和貢献について考える。 ・国際援助をする上での留意点について話し合う。	○	◎	◎	○	第4回	
	2月		L.9 ・The Long Voyage Home ・将来就きたい職業について、簡潔に英語でまとめる。	○	◎	◎		○
	3月	L.10 ・Grandfather's Letters ・手紙の形式を理解する。 ・歴史上の人物に手紙を書き、発表する。	○	◎	◎	○		

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられたテーマについて、英語で分かりやすく話す。</li> <li>本文の内容に関する質問に英語で答える。</li> <li>本文の要約を相手に口頭で伝える。</li> </ul>
------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組</li> <li>ワークシート、予習プリントなどの課題への取組</li> <li>音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト</li> <li>単元テスト、単語テストなどの小テスト</li> </ul>
----	---

評価の細点	① 関心・意欲・態度    ② 表現能力    ③ 理解能力    ④ 知識・理解    ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○)
-------	---

○を記入している。)

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	外国語	科目	英語表現Ⅱ	学年	第2学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	Departure English Expression Ⅱ 大修館				
副教材							

到達度目標	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた場面において、状況や立場に応じて自分の用件を正確な英語で伝えることができる。</li> <li>英文の内容に関する質問について、根拠文を正しく捉え、自分なりの英語で答えることができる。</li> <li>与えられたテーマについて、自分の考えを即興で相手に伝えることができる。</li> </ul>	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられたテーマについて、賛成・反対の立場とその理由を具体例を示して書くことができる。</li> <li>自分の意見や考えを段落構成を考えながら100語程度で書くことができる。</li> <li>英文の内容について、自分なりの英語で要約することができる。</li> </ul>
	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話や説明などを聞いて、キーワードを捉え、大意を把握することができる。</li> <li>英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて英文の内容を正しく聞き取ることができる。</li> </ul>	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明文やエッセイ、対話形式など様々な形態の英語を、重要な事実を捉えながら正しく読み取ることができる。</li> <li>英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて正確に音読することができる。</li> </ul>

	単元	主な単元の目標	評価の観点					定期考査	
			①	②	③	④	⑤		
1 学期	4月	L.1	・印象を述べる／感謝する		○	◎	◎	○	第1回
	5月	L.2	・勧誘する／紹介する・説明する		○	◎	◎	○	
	6月	L.3	・用件を依頼する／希望を述べる		○	◎	◎	○	
	7月	L.4	・気持ちを伝える／発表する・報告する		○	◎	◎	○	
2 学期	8月	L.5	・例を示して説明する／項目を列挙する		○	◎	◎	○	第2回
	9月	L.6	・対比、対照を表現する		○	◎	◎	○	
	10月	L.7	・提案する・助言する／引用する・論証する		○	◎	◎	○	第3回
	11月	L.8	・重要性・必要性を述べる／要約する・結論を述べる		○	◎	◎	○	
	12月	L.9	・主張する／理由を述べる		○	◎	◎	○	
3 学期	1月	L.10	・許可する・禁止する／期待、願望を述べる		○	◎	◎	○	第4回
	2月				○	◎	◎	○	
3月					○	◎	◎	○	

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられたテーマについて、英語で分かりやすく話す。</li> <li>与えられたテーマに関して、ある程度まとまった文章を書く。</li> <li>与えられたテーマでディスカッションやディベートをする。</li> </ul>
------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組</li> <li>ワークシート、予習プリントなどの課題への取組</li> <li>音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト</li> <li>単元テスト、単語テストなどの小テスト</li> </ul>
----	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度    ② 表現能力    ③ 理解能力    ④ 知識・理解    ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	外国語	科目	英語表現Ⅱ	学年	第2学年	類型	SG共通
単位数	1単位	教科書	Departure English Expression Ⅱ 大修館				
副教材							

到達度目標	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた場面において、状況や立場に応じて自分の用件を正確な英語で伝えることができる。</li> <li>英文の内容に関する質問について、根拠文を正しく捉え、自分なりの英語で答えることができる。</li> <li>与えられたテーマについて、自分の考えを即興で相手に伝えることができる。</li> </ul>	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられたテーマについて、賛成・反対の立場とその理由を具体例を示して書くことができる。</li> <li>自分の意見や考えを段落構成を考えながら100語程度で書くことができる。</li> <li>英文の内容について、自分なりの英語で要約することができる。</li> </ul>
	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話や説明などを聞いて、キーワードを捉え、大意を把握することができる。</li> <li>英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて英文の内容を正しく聞き取ることができる。</li> </ul>	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明文やエッセイ、対話形式など様々な形態の英語を、重要な事実を捉えながら正しく読み取ることができる。</li> <li>英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて正確に音読することができる。</li> </ul>

	単元	主な単元の目標	評価の観点					定期考査	
			①	②	③	④	⑤		
1 学期	4月	L.1	・印象を述べる／感謝する		○	◎	◎	○	第1回
	5月	L.2	・勧誘する／紹介する・説明する		○	◎	◎	○	
	6月	L.3	・用件を依頼する／希望を述べる		○	◎	◎	○	
	7月	L.4	・気持ちを伝える／発表する・報告する		○	◎	◎	○	
2 学期	8月	L.5	・例を示して説明する／項目を列挙する		○	◎	◎	○	第2回
	9月	L.6	・対比、対照を表現する		○	◎	◎	○	
	10月	L.7	・提案する・助言する／引用する・論証する		○	◎	◎	○	第3回
	11月	L.8	・重要性・必要性を述べる／要約する・結論を述べる		○	◎	◎	○	
	12月	L.9	・主張する／理由を述べる		○	◎	◎	○	
3 学期	1月	L.10	・許可する・禁止する／期待、願望を述べる		○	◎	◎	○	第4回
	2月				○	◎	◎	○	
3月									

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられたテーマについて、英語で分かりやすく話す。</li> <li>与えられたテーマに関して、ある程度まとまった文章を書く。</li> <li>与えられたテーマでディスカッションやディベートをする。</li> </ul>
------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組</li> <li>ワークシート、予習プリントなどの課題への取組</li> <li>音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト</li> <li>単元テスト、単語テストなどの小テスト</li> </ul>
----	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度    ② 表現能力    ③ 理解能力    ④ 知識・理解    ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---

平成30年度 松山東高等学校シラバス

教科	外国語	科目	Discussion & Debate II	学年	第2学年	類型	SG共通
単位数	1単位	教科書					
副教材	アトラス総合英語						

到達度目標	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた状況に応じて、間違いを恐れずに英語で伝えることができる。</li> <li>英語音声の特徴を理解しながら、大きな声で音読することができる。</li> </ul>	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな話題について、自分の考えを明らかにして50語程度のまとまりのある英文を書くことができる。</li> <li>英文の内容をKey Wordsを用いて再構築したり、自分の言葉を使って要約したりすることができる。</li> </ul>	
	聞くこと	X		読むこと	X

	単元	主な単元の目標	評価の観点					定期考査
			①	②	③	④	⑤	
1 学 期	4月	Traffic Jam	・新しい交通機関について考える。	◎	◎		○	第1回
	5月							
	6月	Who Needs the Local language?	・英語を学ぶ意義について考える。	◎	◎		○	第2回
	7月							
2 学 期	8月	Cyber Bullying	・いじめ解消の解決策を考える。	◎	◎		○	第3回
	9月							
	10月	Why Go to School?	・将来の夢を考える。	◎	◎		○	第4回
	11月							
	12月	Who Will Help Them?	・難民救助における政府の対応について考える	◎	◎		○	
3 学 期	1月	Too little, Too Late	・環境問題について英語で話し合う。	◎	◎		○	第4回
	2月							
	3月	Finding the Right One	・理想の人間関係について意見を述べる。	◎	◎		○	

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられたテーマについて、下を向かず堂々と英語で話す。</li> <li>与えられたテーマで、即興のスキットを行う。</li> <li>与えられたテーマで、ディスカッションやディベートを行う。</li> </ul>
------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組</li> <li>b ワークシート、予習プリントなどの課題への取組</li> <li>c 音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト</li> <li>d 単元テスト、単語テストなどの小テスト</li> </ul>
----	---

評価の観点	① 関心・意欲・態度    ② 表現能力    ③ 理解能力    ④ 知識・理解    ⑤ なし (評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。)
-------	---